

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590100343		
法人名	医療法人 久幸会		
事業所名	あじさいの家		
所在地	秋田市山王沼田町4-11		
自己評価作成日	平成28年8月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/05/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成28年10月12日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

秋田市の中心部に位置するグループホームで駅や公共機関が近隣にある都会的な環境の中で生活しています。入居者様の生活歴を尊重し、個々の生活のペースを大切に、ゆったりとした雰囲気の中で生活しています。季節に合わせた食事や行事を取り入れ地域と触れ合いながら街の一員として過ごしています。また、同法人の医療機関と連携をとりながら、充実した医療ケアや機能訓練を実施し、安心して生活が送れるよう支援しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔多く家族や地域とのつながりを大切に安心して暮らしていく」という理念を「つながり」「安心」「笑顔」3本柱と称し、管理者、職員は丸となり取り組んでいる。「精神的な安定が健康につながり、自然に笑顔になる」と管理者は話し、「日常的な生活が笑顔あふれる暮らしになるように」と職員は話し、実践につなげている。  
秋田市の中心部に位置するホームは公園、スーパーが近く日常的に外出している。普段の生活の中での近隣とのさりげない挨拶や、町内会長が災害時の支援を近隣に呼び掛けてくれるところからも近隣との密接なつながりがうかがえる。法人の特性を活かし、身体状況を把握した中での生活のケアと医療ケア、重度化した場合の在り方を利用者中心に考え、安心して暮らしていける環境を整え支援されている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	目に入りやすい場所にGH独自の理念と法人全体の理念を掲示し、常に理念を意識し頭に入れながら動ける様にしている。	「精神的な安定が健康につながり、自然に笑顔になる。日々の生活の中で大切にしたいことは、職員も利用者も同じ」と管理者は話し、職員と共に意識し実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の公園を利用し花見をしたり、地域の清掃に参加するなど、交流を図っている。また、あじさい便りを町内会に回覧している。	近隣との交流の機会をあえて作るのではなく普段の生活の中で日常的に挨拶できる関係作りができています。また、ホーム誌「あじさい便り」を地域に回覧しホームの生活の様子を伝えている。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	あじさい便りや運営推進会議を利用し、町内会に伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会長、包括支援センターのスタッフ、ご家族様に参加して頂き意見交換を行いアドバイスをもとにサービスの改善や向上に努めている。	会議では一方的な報告ではなく、参加者からの質問に答え、意見、要望を聞いている。会議の内容は職員間で話し合いサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村が企画する研修に参加するなど、日頃のケアに対する意識を振り返りながら、交流を深めている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員に参加してもらい、事業所の実情や取り組みを報告し連携を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関には、センサーを配置するなどし日中は施錠せず開放している。また、研修や勉強会などに参加し身体拘束について理解を深めている。	身体拘束を行わないケアは実践されている。拘束は言葉からも発生することを認識していて、研修会やミーティングで精神的拘束についても伝え自然に意識付けできるように取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内外の研修や勉強会に参加し、参加したスタッフはミーティングなどで報告し、スタッフ間で共有しながら見過ごされることがないようにケアに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内外の研修や勉強会に参加している。また、法人内の相談員と連携をとりながら、必要性について見極めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者やご家族の不安を早急に解決し安心した生活ができるように、相談員と協力しながらその都度対応を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム内に意見箱を設置し、意見等が気兼ねなくだせる様に配慮している。また面会時などにスタッフから積極的に声を掛け意見を聞くなどしている。	職員が統一した対応で、面会時に要望や意見を聴くようにしている。アンケートを行ったり、なかなか来られない家族へは電話をかけるなど積極的に働きかけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催し、スタッフの意見を聞く機会を設けている。また管理者は、法人内のリーダーや所属長に相談し運営に反映させている。	課題が発生した時は、その場にいる職員と案を出し合い解決に向け共に取り組み、月に一度のミーティングでは隔たりなく意見を言えるような雰囲気作りを心掛けている。職員の発案を行事に取り入れるなど意欲の向上につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年に1回、自己評価用紙を記入し所属長と個人面談を実施している。その結果を今後の職場環境に生かしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修に参加し、日頃の実践を振り返る機会を作っている。また、毎月のミーティングは司会と書記を当番制で行い、各自責任を持って業務を行うようにトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のグループホームと交流を図ったり、秋田市のグループホーム協議会に参加し勉強会や他施設との相互訪問を実践に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい環境に不安にならない様に、相談員と協力しながら説明している。また、担当スタッフを置き安心して要望を話せるように環境を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の生活歴を理解しながら、家族との関係も把握する様に努めている。また家族の想いもしっかりと受け止めてサービスに結びつけている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の体調に合わせ、食事の盛り付けや食器洗い、洗濯たみ等をスタッフと一緒にやり、信頼関係を築いている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会を敬老会と合同で年に1回開催し、本人、家族、スタッフが自然と交流しやすい環境を作っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人からの希望があれば、友人や知人と連絡が取れるように調整している。また外出レクリエーションなどで馴染みの場所を訪れる等している。	電話連絡や年賀状を差し出したり、外出レクリエーションの中で馴染みの場所に出かけるなど関係が途切れないように可能な限り対応している。どうしても対応が困難な場合は家族にも協力いただき、関係が途切れないようにしている。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者が孤立しないように周囲との関係に配慮しながら、さりげなく声掛けをしたり、一緒にレクリエーションや体操を行ないながら寄り添い支援している。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中は、面会に行き様子を伺うなど、ご家族にも相談員と協力しながら対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎月モニタリングを実施し、本人の訴えを傾聴し、担当スタッフと協力しながらケアプランに活かしている。	アセスメント時に思いや意向、慣れ親しんだ事を聞き、その人らしい生活を送ることができるように書き込まれている。入浴時、職員との1対1の会話では、傾聴の姿勢で意向の把握に努めている。内容はアセスメントシートに書き加えられ、より暮らしやすくなるように取り組んでいる。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・本人から生活歴を聞きファイルにまとめている。本人の生活歴を可能な限り継続し入居者様個々のスタイルで生活が送れる様に情報を共有している。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ホーム内独自に作成した申し送りファイルを活用し、24時間の心身の状態の変化を分かりやすく記入して実践に生かしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月必ずカンファレンスやモニタリングを行ない、本人の心身の状態に応じて対応できるように、本人の要望を聞きながら介護計画を作成している。また、ご家族にも現状を報告し希望を確認している。	月に一度のミーティングはカンファレンス形式で行い、課題を提示し「どう対応していくか」を話し合い、介護計画に反映させている。毎月モニタリングを行い、家族からも話を聞くように努め、評価につなげている。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月のミーティングでカンファレンスを行ない、対応を話し合い記録し情報を共有している。早急な場合は、朝や夕の申し送りに居るスタッフで相談し、管理者に報告を行ない実践している。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にボランティアの訪問などで押し花を開催している。また、大型店での買い物など行っている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に協力医療機関の説明を行ない、希望に応じて病院の付き添いを行ないながら対応している。	本人や家族の同意を得て法人内の医療機関を受診している。希望があれば他医療機関を受診する体制もある。身体状況が法人内で把握され、通院方法を含め本人、家族の納得いく受療支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りファイルを活用して、看護師へ分かりやすく速やかに報告している。特変があった時は、看護師へ早めに報告し受診等の支持をもらうよう責任を持ち対応している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師や相談員と連携を図り、本人だけでなく、ご家族とも十分に話し合いながら対応している。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に主治医や相談員等を交えて終末期ケアについて話し合いが持たれている。	終末期の在り方について入居の段階で本人、家族に説明している。ホームの重度化や終末期の支援体制で支えていけるかの見極めを主治医との面談を通し納得のいく形で話し合い、できる限りの支援方法で対応している。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成し、落ち着いて対応が出来るようにミーティング等で実践訓練を行なっている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に様々な場面を想定した避難訓練を実施し、緊急時に備えている。また、町内会長にも連絡するなどして理解、協力してもらっている。	避難訓練は体で覚えるように回数をこなすことが大切と意識付け2ヶ月に1度行っている。時間を測り、振り返りを行い次回につなげている。密集している住宅街だが、地域の住民状況を把握し、町内会長からも地域住民への協力が呼びかけられている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生き方を尊重した声掛けや雰囲気づくりに努め、落ち着いて暮らせる環境を目指している。	常に「人生の先輩」であることを意識し、かしこまることなく、場面・状況に合わせた言葉使いや配慮を徹底している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個性に合わせた対応をし、時間がかかっても焦らせることなく、自分で納得して決める事が出来る様に配慮している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースに合わせた対応が出来るように、その日の体調や表情にあわせた声掛けを心掛けている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に法人内の床屋を利用したり、本人の希望によりスタッフが髪染めを行なっている。また、更衣の際は、本人の好みに合わせた服と一緒に選び季節に合わせた洋服選びを行なっている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事食を取り入れたり、正月などの祝日には利用者が食べたい物の希望を聞き提供している。また、食事の後片付けを本人の状態に合わせて行っている。	法人の栄養士が献立をたて、おかずが届けられる。職員は目を楽しませるように盛り付けを工夫している。正月等の祝日は配食が休みになるため、利用者に食べたいものの希望を聞き提供している。食事だけではなく、おやつ作りや外出時に軽食を食べることも楽しみにつながっている。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は、毎食ごとに記録を行い健康状態の把握に努めている。本人に合わせた量や形態を提供している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人の状態に合わせて声掛けや見守りを行ない支援している。どうしても拒否が強い時はうがいを促し無理強いしないように心掛けている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに添って、声掛けやトイレ誘導を行なっている。夜間は、入眠時間や排泄量を確認しながら、出来るだけ自力でトイレに行けるように見守りをしている。	排泄パターンに応じた個別の支援を行っている。退院時はオムツを使用していた利用者のカンファレンスを開催しオムツを外すことを目的に取り組み、リハビリパンツを使用しながらもトイレに行くことができるようになったケースを確認した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便回数・量・性状を記録して早めに変化に気づくように観察している。便秘予防には、乳製品やラジオ体操などを行なっている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に2回以上の入浴をすすめて清潔保持に努めている。個々の体調や希望に合わせて無理のないように支援をしている。	健康状態を確認し週に2回以上入浴できるように支援している。入浴剤を入れ、くつろいだ気分で、職員との会話を楽しみながら入浴できるように配慮している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースで過ごせるようにさりげなく声掛け見守りをし、落ち着いて休めるよう、サロン、リビングのソファで休息できる様にしている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容・目的・用量・用法を個々の受診ファイルに記録している。受診時内服薬の変更があった場合は状態の変化に気をつけて観察を行う様に努めている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日課としているラジオ体操、行事食、外出レク等を提供し、メリハリのある生活を心掛けながら支援している。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出レクは入居者様の希望に合わせて企画し、家族やボランティア、法人内の職員と協力しながら実施している。	歩いていける距離にスーパーがあり、日常的に買い物に行き、また、公園までの散歩を楽しんでいる。冬期間を除き、月に1度は目的地を決めてドライブに出かけたり、馴染みの場所に行くなど、思いに添った外出支援に取り組んでいる。生き生きとした表情で身なりを整える利用者の意欲の向上につなげている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出レクや買い物レク時には、個人に合わせてお金を自由に使用している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望に応じて自由に電話を使用している。また、押し花レクで作成した葉書を暑中見舞いや年賀状に使い本人の希望・了解を得て郵送している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季に合わせた壁画や置物を飾り、季節感を出している。消臭剤を目の触れない所に置き、違和感なく快適に過ごせるように配慮している。	個人的に作業したい方、2階のソファでうたた寝を楽しむ利用者など、思い思いの場所で過ごしている。壁画や飾りつけは華美にならないように配慮し落ち着いて過ごせるようにしている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	サロンにソファやテレビを置き、気軽に入居者様同士気兼ねなく過ごせるように配慮している。リビングでは思い思いに過ごせるように1人掛けのソファ等を置き雰囲気作りに工夫している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が昔、使用していた物や作った物、思い出の写真、馴染みのものなどをご家族・本人と相談しながら、居心地良く過ごせるように配慮している。	馴染みのものを活かし、その人らしく暮らせる部屋となっている。季節の服の入れ替え時は混乱しないように配慮している。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階建ての造りだが、廊下・階段・トイレ・浴室に手すりが設置されており、安全に身体機能が活かせるように工夫している。		